

ガンマナイフ inside 同志による治療の核心



小型聴神経鞘腫のガンマナイフ治療時期について知見を深める

Upfront Radiosurgery vs a Wait-and-Scan Approach for Small- or Medium-Sized

Vestibular Schwannoma: The V-REX Randomized Clinical Trial.

Dhayalan Dら JAMA. 2023 Aug 1;330(5):421-431

紹介担当 洛西シミズ病院 川邊 拓也
(ガンマナイフ有志)

大田記念病院 中崎清之、新須磨病院 近藤威
岡村一心堂 蓮井光一、青山総合病院 水松真一郎、
国立循環器病研究センター 森久恵



小型～中型の前庭神経鞘腫の治療戦略で
即定位照射すべきか、注意深く観察でも可か、
についての初めてのランダム化比較試験。

【この報告の独自性】

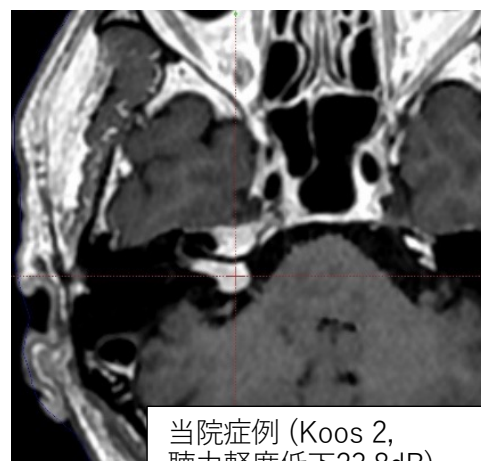
即定位照射、注意深い観察いずれも欧州での
ガイドラインでは推奨されているが、比較試験は
初となる。100名、4年間の追跡で評価。

主要アウトカムに腫瘍縮小。
副次アウトカムに聴力など機能予後を設定。

【結果の要点】

本研究4年間の体積変化を比較検討したところ、
即定位照射のほうが体積を縮小できた。

聴力温存、平衡機能障害など機能予後については有意差がなかった。



当院症例 (Koos 2,
聴力軽度低下23.8dB)

当院では経過観察の後
定位照射となった。

各ガンマナイフ治療医の意見

- 患者側からすると『聴力温存／低下』が画像での体積変化よりも優先されるので、サブ解析に期待。
- 治療決定に際して聴力温存が可能かを検討する。治療に伴う一過性膨大を念頭に置いて適応を判断している。
- 本邦の場合、高齢者での治療選択検討も重要。

お問い合わせ



社会医療法人

岡村一心堂病院

TEL 086-942-9900

FAX 086-942-9929

より良い医療を
地域の人々に